「レクイエム・プロジェクト神戸」を主宰する作曲家

人

上田（うえだ） 益（すすむ） さん

「心を一つにするというよりも、思いを重ねてほしい」。阪神・淡路大震災の被災者らでつくる合唱団が歌う「レクイエム・プロジェクト神戸」。その活動が今年で10周年を迎える。

大阪府出身で、京都市立芸術大学で作曲を専攻。活動拠点を東京に移した翌年、神戸の惨状をテレビで知った。難を逃れたという後ろめたさ。「作曲家に何ができるのか」「音楽にどんな力があるのか」という命題を突き付けられた気がした。

転機は1999年。神戸ルミナリエで会場音楽の作曲を依頼された。「命題を解くきっかけに」と引き受け、被災地との関わりが始まった。

2008年、震災の記憶の風化を懸念し、同プロジェクトを企画。最初の2年間は練習に加え、参加者に被災体験を語ってもらった。「僕なりに震災を追体験した」と語り、計10曲からなるレクイエム「あの日を、あなたを忘れない」に結実させた。レクイエムとは死者を悼むための音楽。同曲では、キリスト教のミサの典礼文を基に、被災者である団員の思いを反映した詞を合わせた。

これまでプロジェクトは災害被災地の兵庫県佐用町や東日本、戦災地の広島や長崎など計7カ所で実施し、地元の詩人の作詞で合唱組曲を書いている。1月21日のコンサート（神戸文化ホール）には各地から有志が駆け付け、約260人で歌う。

「なぜ歌うのか。それぞれが意味を見つけていく場」。自らも命題を解く旅の途上にいる。

61歳。東京都在住。妻と2人暮らし。

（松本寿美子）